

# 河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究

## －日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)の2024年度活動報告－

### A report on the development of exchange platform for information sharing and collaboration toward river restoration: Activities of the Japan River Restoration Network in 2024

水循環・まちづくり・防災グループ 主任研究員 和田 彰  
 審議役 土屋 信行  
 水循環・まちづくり・防災グループ 主任研究員 阿部 充  
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 北澤 史  
 自然環境グループ 主任研究員 白尾 豪宏  
 自然環境グループ 研究員 森本 洋一

## 1. はじめに

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本の窓口として、日中韓を中心とする海外機関との連携を通じて日本の優れた知見を海外に向けて発信するとともに、海外の最新の事例情報等を日本国内に還元することを目的に2006年に設立され、設立当初より当研究所が事務局を務めている。この国際活動に加え、国内向けには小さな自然再生の普及促進を柱に、川づくりに関わる情報共有基盤の強化を目指し活動している。

本稿では、2024年度に当研究所がJRRN事務局の運営を通じて実施した川づくりに関わる情報共有・発信の充実、担い手育成に向けた普及啓発及び国際連携の取組みについて報告する。

## 2. 2024年度のJRRN活動内容

### 2-1 川づくりに関わる情報共有・発信の充実

国内外の川づくりに関するニュース、行事、出版物、施策等の最新情報を、ウェブサイトやfacebook、Instagram等のSNS及び隔月発行JRRNニュースレター等の情報媒体を通じ広く社会に発信した。

また、国内外関係機関からの提供情報の共有や、毎年春に実施する「桜のある水辺風景」応募作品の紹介を通じて、水辺や川づくりの魅力発信、また関連情報と担い手を繋げる情報共有基盤の構築に取り組んだ。

#### <JRRNが運営する主な情報共有基盤>

※ウェブサイト：<http://www.a-rr.net/jp/>

※facebook：<https://www.facebook.com/JapanRRN>

※Instagram：<https://www.instagram.com/jrrn01/>

### 2-2 川づくりの担い手の育成に向けた普及啓発や協働 ～小さな自然再生の普及促進～

2014年より小さな自然再生の全国への普及に取り組んでおり、2024年度は、(公財)河川財団の河川基金の助成を受け、小さな自然再生のハンドブック制作及び「小さな自然再生」現地研修会を開催した。

#### (1) 「はじめての魚の居場所づくり vol.2」制作

2024年3月に滋賀県流域政策局及び滋賀県立大学大学院流域政策・計画学研究室が発行した「はじめての魚の居場所づくり」(全16ページ)をバージョンアップした続編として、川を耕す取組みや魚道の事例などを追加した「はじめての魚の居場所づくり vol.2」(全24ページ)を制作し2024年8月に発行した。本冊子は、小さな自然再生のハンドブックとして、魚にとって大切な場所について理解し、魚の居場所づくりに取り組む際のヒントを分かりやすくとりまとめたもので、全国で取組まれつつある手づくり魚道や多様な流れを創出するバープ工の概要とそのつくり方を紹介している。



図-1 はじめての魚の居場所づくり vol.2

(2) 「小さな自然再生現地研修会」開催（5回）

2024年度は、5月から11月にかけて計5回の「小さな自然再生」現地研修会を開催し、また開催結果は開催報告書としてとりまとめウェブサイトに掲載した（表-1, 写真-2）。

表-1 現地研修会の開催地・開催日・共催団体

回	上段：開催地／中段：開催日／下段：共催団体
23	滋賀県&福井県・北川上流域河内川
	2024年5月25日（土） 北川を遊べる川にする有志の会
24	新潟県新発田市・古太田川
	2024年6月30日（日） 下興野自治会、早稲田大学景観デザイン研究室
25	滋賀県長浜市・大浦川
	2024年11月2日（土） ONE SLASH
26	兵庫県上郡町・千種川
	2024年11月3日（日） 千種川圏域清流づくり委員会
27	長野県長野市・千曲川流域休耕田
	2024年11月30日（土） 更北中学校ものづくり部理科班、更北地区住民自治協議会、更北流域治水研究会



写真-1 研修会の様子及び開催報告書（全5回）

2-3 川づくりの国際的な技術交流

(1) 海外から来日した河川研究者との技術交流

2024年4月に東京の失われた水路や河川を研究する英国バーミング大学の視察団と、また2025年1月に日本の自然再生を研究する豪州キャンベラ大学の専門家と技術交流を行った。



写真-2 河川研究者との技術交流の様子

(2) 「第20回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」及び「第18回ARRN運営会議」

ARRNが主催した『第20回ARRN水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を2024年9月25日（水）に、ARRN理事会に相当する「第18回ARRN運営会議」を26日（木）に、中国・北京市で開催された「第3回アジア国際水会議」に合わせて開催した。

ARRNフォーラムでは計9本の発表があり、日本からは機械学習を用いた河川の地被区分の自動判読に関する研究事例、また河川水辺の国勢調査と自然再生について発表を行った。またARRN運営会議では、日中韓の各RRNメンバーが参加し、過年度活動報告とARRNの年次活動計画について審議した。



写真-3 国際フォーラム（上）及び運営会議（下）

3. おわりに

JRRNの諸活動は国内外の様々な団体及び専門家との協働で成り立っており、当活動にご支援、ご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。